

1. 概要


本図面は、PC-9821 Ls12/D10 が標準で搭載している FD1238T を取り外し、代用の FDD を接続する為 (本図面では FD1155D、FD1231T を想定) の変換基板及び、基板用収納ケースの改修を行う図面である。

2. 材料

- PC-9821 で、98 用 FD1238T 相当 26pin ケーブル搭載機
- 5.25型FDD (VFOなしか、VFOを無効に出来る機種。FD1155D 相当) または、3.5型FDD (FD1231T 相当)
- 汎用基板 72mm x 95mm x t1.6mm (ICB-93S 相当)
- 汎用基板収納用ケース (スリム形 3.5型FDD の中身を撤去して転用、FDD は EME279TD 相当)
- 代用 FDD 側 34P フラットケーブル用 L 形ボックスヘッダ (HIF3BA-34PA-2.54DS (71) 相当)
- PC-9821 Ls12/D10 側 26P フィルムケーブル用コネクタ (EME279TD より一部基板含め取り外し再使用)
- 34P フラットケーブル (HIF3BA-34PA-2.54DS (71) と代用 FDD に適合するコネクタを装着してある事)
- AT 互換機用として流通している、既製のコネクタ付フラットケーブル (34P FDD 用) で代用可能 (HIF3BA-34PA-2.54DS (71) に接続するコネクタと 5.25型FDD または 3.5型FDD 用コネクタを完全にストレート結線した仕様のフラットケーブルに限る)
- 基板内の配線、ハンダその他雑材料

3. 特記事項

- A. 26P フィルムケーブル用コネクタ側の配線ハンダ付けが少々力加わった程度で簡単に外れる為、誤って配線が外れた状態で FDD にアクセスしてしまうと、FD の論理破壊が起きデータ読取不能となり「くっ」と歯軋りする事態となる。このような事態を予防する為、L 形ボックスヘッダ天端とファイルベースが干渉して変換基板に力加わらない様、変換基板は何がナンでもまな板の様に薄く仕上げる事。(ファイルベース内部の有効高さは、CH=15mm程度)
- B. 調達出来た材料の都合で L 形ボックスヘッダがファイルベースに干渉する場合、可能な限りヘッダ側を削り、それでも干渉する場合に限りファイルベース内部を削る事。
- C. 汎用基板として記載している ICB-93S は、紙フェノール基板であるためフラックスの洗浄時には反りを発生させない為に、洗浄用のアルコールなどを使いすぎない様に注意する事。
- D. 2HD (1.4MB) 形式未対応の FDD を接続する時は、L 形ボックスヘッダ 1 番ピンは何も接続しない。(26P フィルムケーブル用コネクタ側 13 番ピンの 360/300 信号は 2HD 使用時の回転数制御用)
- E. FD1231T 相当の FDD を接続する場合は、2HD (1.2MB) 形式と 2HD (1.4MB) 形式の切替に 360/300 信号が必要な為、L 形ボックスヘッダの 1 番ピンを図面通り接続する。また Disk Change 信号 は使用しないので L 形ボックスヘッダ 33 番ピンは何も接続しない。

工事名称 PC-9821 Ls12/D10 5.25 型 FDD 接続計画		工事設計図	1
図面名称 FDDインターフェイス変換基板回路図	縮尺 1 / 1	1	
 試運転の資料館 Library of Shiunten			